

森の通信

The Miyazaki Prefectural Museum

宮崎県
総合博物館だより

第2号

発行日 / 昭和60年8月1日

発行 / 宮崎県総合博物館 〒880 宮崎市神宮2丁目4の4 TEL (0985) 24-2071



上記の古文書は古地図と組になっていたもので、島津左京（惟久）の時、日州佐土原藩の城地について本領と分地（久寿〈式部少輔〉分三千石）を明らかにし、すでに元禄二年に描いた絵地図を添え、鹿児島へ伺いをたてる為に大久保加賀守の家臣近藤吉左衛門を通じて依頼したものと考えられる。古文書には年号等が書かれていないが、「宮崎県史料」第7巻「佐土原藩、嶋津家日記」と照合してみると「元禄五年四月」の指出伺いではないかと思われ「前方近藤吉左衛門殿迄絵図ニ相添被遣候御書付之写元禄貳年之日記ニ有之候付爰ニ略之絵図貳枚摺并書付之摺御重宝之物入櫃之内ニ有之松白木之箱之内ニ有之」とあり、これらの写しの一つではないかと考えられる。佐土原藩では、藩成立後このように再三再四にわたって、本家鹿児島島津へ城地執成やその他のことについても逐一報告していたのであろう。（宗 像）

展示案内〔話題のコーナー〕

● 民俗(宮崎の漁撈用具・5月14日～9月8日)

宮崎県には、西の山地から東の海に向かって大きな川がいくつも流れています。これらの川をはじめ、小さな川や池で人びとは魚をとりました。

魚のとり方は、五ヶ瀬川のおゆやなど大がかりなものもありますが、ふつうには、うけやうなぎぼっふ、なげ網などです。小川やみぞにはうけをつけます。うけでは流れとともにくだるふなやどじょう・なますなど小魚がとれます。大きな川ではなげ網やしぼづけ・うなぎぼっふ、がにかごなどで、こい・ふな・はえ・うなぎ・山太郎がになどがとれます。また、秋にはため池の水をぬき、うぐいなどでこいやふなをとります。

宮崎県の東部は海に面しています。日南海岸や北浦海岸は出入りの多い海岸で、むかしから漁業のさかんなところでした。いそでは海中にもぐって、あわびやさざえなどをとります。もぐる時期は3月から8月までで、身につけるものはへこ水申めがねだけです。すもぐりで20mぐらいの深さまでもぐるのですから、とてもきつい仕事でした。また、この地方はよい港が多く、漁船による漁業がさかんです。きんちゃく網・はえなわ・トロールなどが行われています。都井地方には、とび魚漁やさわら流し漁などめずらしい漁法が残っています。日向から青島にかけて、すな浜海岸が60kmぐらい続いています。この海岸では、かつて地びき網漁がさかんでしたが、今は行われていません。

(前田)

注1. しぼづけ(竹笹・杉の葉を束ねてヒモでくくり、数個川に流しておき、魚の集まる習性を利用してしぼの下からすくう)

注2. うぐい(竹を円錐形にあみ、池などの魚を上からかぶせるようにして漁をする)

注3. さわら流し漁(布で1m余のオドリ魚を作り、それを泳がせ、サワラがそれを襲うのを機にモリでとる法)

一ロゼミナール・一ロゼミナール 宮崎でのホタルの生活 一ロゼミナール・一ロゼミナール



小林市出の山で採集し飼育中のムネクリイロボタルのさなぎ



羽化したムネクリイロボタル

世界で約2,000種(光るホタルは200種)もいるといわれるホタルも宮崎では、ゲンジボタル・ヘイケボタル等7種類が見られます。

ゲンジ・ヘイケ・ヒメボタル等ルシオラ属(ホタルの一つのグループ)のものはよく発光して人の目を引きませんが、あとのホタルは光らなかつたり、少ししか光りませんのであまり気づかれません。

最近、多くのゲンジボタルの生息地が知られてきました。なかでも小林市は市をあげて保護に取り組んでいます。ほかにも、ホタルの乱舞の里が増えてきました。ほんとうに喜ばしいことです。しかし、ほんとうにす

ばらしい、ホタルの里を作るにはホタルの生活史すべてを考えた環境づくりをしなければと思います。

● 宮崎県でのゲンジボタルの生活

陸上生活	水中生活		土中生活
(成虫) 成虫期	幼虫(6回脱皮)	冬眠し	土中生活
5 6 7	8 9 10 11 12	1 2 3	4 5

(遠矢)

「ミレーとバルビゾンの画家たち」を終えて



この特別展は、5月18日から6月23日まで当館で開催されました。ミレーをはじめ19世紀フランス自然主義画家たち21作家98点で、東京、宮崎の他3つの会場で開催されました。会場は、オープンと同時に子供からお年寄りまで幅広い層の入場者でにぎわいひとつ、ひとつの作品を熱心に見入っている様子や家族連れの人

も多く、絵の前で親子がなごやかに語りあう光景があちこちで見られました。会期中は梅雨の季節で雨の日が続いたにもかかわらず、県内外から56,895名の入観者を数え、盛況のうちに終わりました。美術展に対する関心の高い宮崎県民でありました事を喜んでます。

今後もこのような期待に応えられる企画を数多く催していきたいと考えます。

(永井)



「ミレーとバルビゾンの画家たち」を観て



児湯郡都農町 田尻清子さん

小雨模様の朝でしたが、絵画の好きな主人は杖がないと歩けませんので、平日でないに入場者が多くて迷惑をかけてはと、早朝汽車で参りました。会場はまだまばらでこれは有難いと入場しました。百年も前にバルビゾン村にルソー、ミレーの有名な画家達が、農民画や静物画に一人一人身近な自然と真剣にとりくんでその中の真実を求めて描かれている一点一点。百点ちかい名画に何も分からない主人と、うーん、うーんとうなづき乍ら、一步一步会場を進み、コロアの「森の中の空地」静寂の中に小さな人物像と、ともすれば私達が古木を動かしている様な一体感にひたりました。ひょっと振り返ると、いつのまにかどこかの小学生の一群が口をしめて静かに続いていました。ルソーの絵は広大な色彩、光の完璧な描写、ミレーの「馬鈴薯の収穫」「薪を集める人々」などの崇高な人物像、筆でこんなにも内面的な表現が出来るのだろうか。時間のたつのも忘れていました。こんな絵に接した今、何か自分の心まで洗われたような気持で一ぱいでした。ああ、今日は本当によかった。一人でも多くの人達に呼びかけたいと思いつつ掃途につきました。何年振りであろうこんな余韻につつまれたのは……。

館外からの便利

「ミレーとバルビゾンの画家たち」の絵をみて

絵をかくのがとても上手だったので、ぼくは、びっくりしました。きれいな絵がたくさんあってとても良かった。小さい絵や大きい絵をたくさんみました。博物館でむかしのかたなやよろい、かぶとを見ることができてとても良かったです。ありがとうございました。

(宮崎県立延岡ろう学校小学部 荒瀬利弘君)

*宮崎県立延岡ろう学校のみなさん。お便りありがとうございました。紙面の都合で荒瀬君のお借り致しました。この他、大門優子、若杉哲彦、持永清美、赤野友照、吉岡健一、川野源太、日野弘美、黒木慎一、北原孝、江藤美由紀のみなさんからと大分県佐伯市八幡小学校6年生のみなさんからのお便りいただきました。

